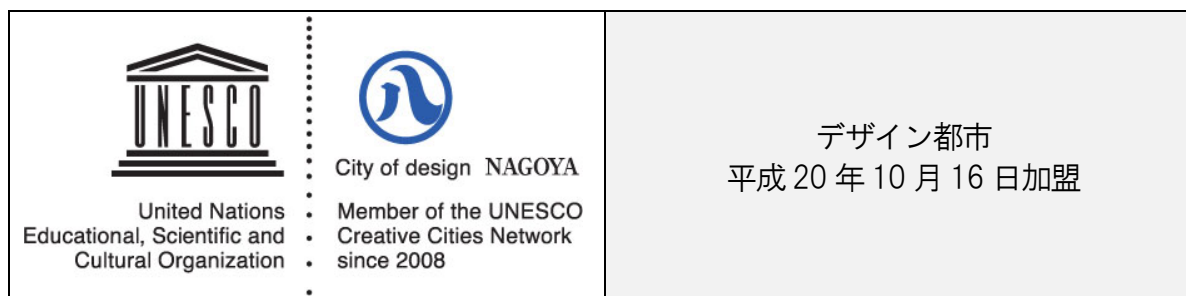


ユネスコ加盟都市との連携事業
国内4都市の取り組み状況について

1. 名古屋市



(1) 名古屋市の特徴

平成元年の「デザイン都市宣言」、世界デザイン博覧会の開催以降、デザインを核としたまちづくりを推進。自動車産業をはじめとする世界有数の“ものづくり”の中核圏域として都市の活力を生み出す“デザインの力”に着目し、豊かで創造性溢れるまちづくりを推進している。

「名古屋国際デザインセンター」は、名古屋デザイン文化の創造・発信拠点であり、『ユネスコデザイン都市なごや推進事業実行委員会』の事務局が設置され、国際デザインコンペなどの国際交流や展覧会の開催、人材育成、デザイン企画支援、企業支援などのコンサルティング、情報収集や情報発信事業など多面的な事業展開を進めている。

(2) ユネスコ加盟都市との連携事業・主な取り組み

①国際デザインフォーラム2009（平成21年11月27日開催）

- イギリスから講師を招き基調講演を実施。
- ユネスコのデザイン都市の紹介とディスカッションを実施。
- 持続可能性をキーワードに、都市における「残したいもの・残すべきもの・伝えたいもの」について議論を行った国際会議。



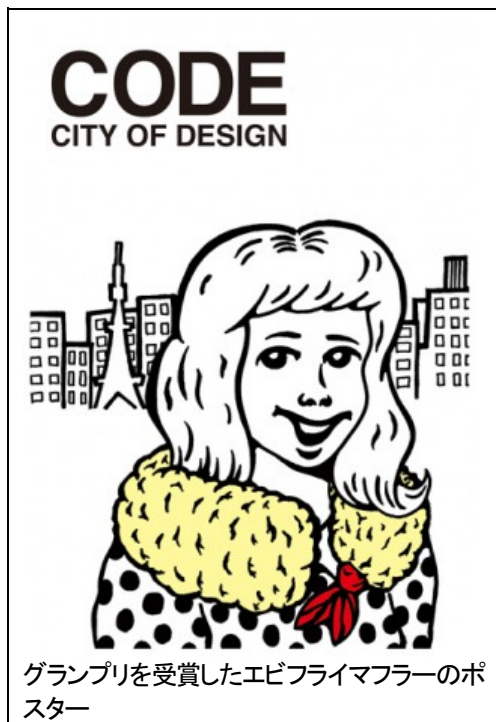
ジョン・ウッド氏の講演
ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ デザイン学部教授



ドヨン・リー氏の講演
ユネスコ事務局創造都市ネットワークコーディネーター

コード
CODEポスターデザイン・コンペティション（平成22年9月～10月開催）

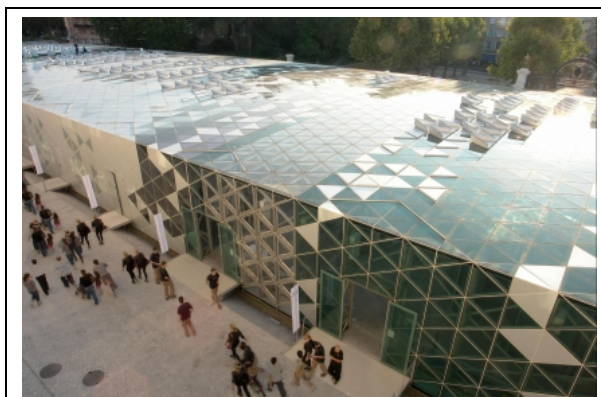
- ユネスコデザイン都市の初めての共同プロジェクト。
- ベルリン・ブエノスアイレス・神戸モントリオール・名古屋・上海・深圳のそれぞれの都市が持つ、独自に「つくりあげてきたもの」、「つくっているもの」、将来に「つくりあげるもの」など都市のアイデンティティをテーマにデザインを市民から公募した国際コンペティション。



名古屋会場におけるコンペティションの様相

③サンティエンヌ国際デザインビエンナーレ2013（平成25年3月13日～17日開催）

- ユネスコデザイン都市であるサンティエンヌ市（フランス）が1998年から開催しているデザインによるイノベーション、将来への展望、研究にフォーカスした世界に広く知られる国際デザインビエンナーレ。名古屋市もデザイン都市として出展。

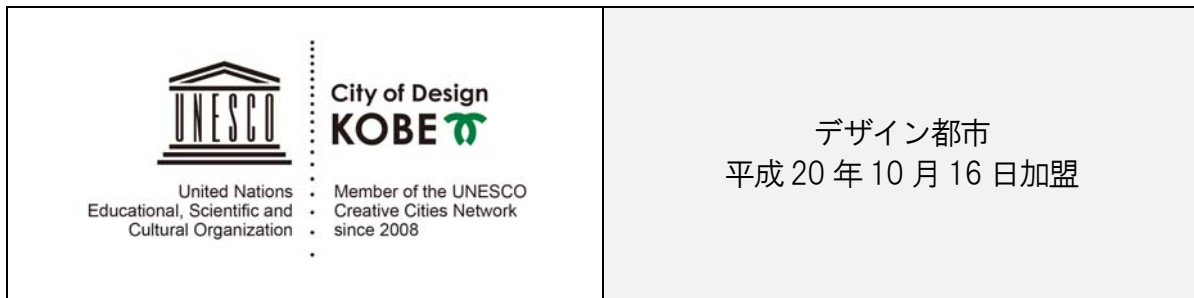


2007年に国立兵器工場の跡地を利用したビエンナーレ会場。総面積は3万3000平米にもなり、未来型デザイン都市のシンボルとなっている。



このビエンナーレは全ての人々に開かれた前衛的な一大芸術イベントで、デザインクリエイションのショーウィンドウ、デザイン追求の実験場でもある。

2. 神戸市



(1) 神戸市の特徴

神戸港の開港以来、外来文化を積極的に取り入れ培われた開放的で自由な気風からなる暮らしの文化を背景として、「ファッション都市」「アーバンリゾート都市」といった都市像を掲げまちづくりを推進。おしゃれで洗練された都市イメージに「まちなみ」「くらしの文化」「ものづくりの技術」という3つの“神戸らしさ”にデザインという要素を加味し『デザイン都市・神戸』の実現を目指している。

神戸港の発展と歩みを物語る貴重な歴史的資産である「旧神戸生糸製作所」を『デザイン都市・神戸』のシンボルとして“創造と交流”の拠点としてリノベーションし、デザイン・クリエイティブセンター神戸（愛称：KIITO）として平成24年8月に開館。4つの活動方針（①クリエイティブの実践の場をつくる、②クリエイティブの担い手をつくる、③クリエイティブの交流の場をつくる、④クリエイティブな情報の発信とネットワークを広げる）に基づき事業を展開している。



旧神戸生糸製作所は、近代神戸の歴史を物語る貴重な近代産業化遺産であり、コンバージョンにより、「デザイン都市・神戸」のシンボルとして、また、市民・事業者・クリエイターが交流し新たな価値を創造する拠点として生まれ変わった。

(2) ユネスコ加盟都市との連携事業・主な取り組み

①ユネスコデザイン都市フォーラム in 神戸 (平成21年11月24日開催)

- ユネスコのデザイン都市の取り組み事例の紹介
- 「デザインの力で都市をつなぐ・魅力をつくる」をテーマにパネルディスカッションを実施し、デザイン都市相互の連携や、デザインを視点とした創造的で魅力溢れる都市づくりについて議論を深めた。

②ユネスコデザイン都市フォーラム in 神戸 (平成24年11月10日開催)

- ユネスコのデザイン都市(11都市のうち8都市)および神戸市の親善協力都市であるテグ市(韓国)が「未来は創造力を育む」をテーマに子ども達の創造性を高める取り組みについて発表。
- 明和電機のアートユニットによるパフォーマンスプレゼンテーションも行われた。



創造都市ネットワークのデザイン都市から代表者が神戸に集結し、各都市の取り組み事例を発表。

③アジア・デザイン都市フォーラム2013 (平成25年11月30日開催)

- 神戸ビエンナーレ2013の連携事業、KOBE デザインの日 記念イベントとして開催。
- デザイン都市の11都市のうち、ソウル、上海、神戸のアジア圏の都市によるシンポジウム。
- 「PLAY! DESIGN! ～これからの都市のあり方～」をテーマに“デザイン・アート×地域”について議論を行う国際会議。未来都市ネオ神戸を考える参加型グループワークも行う新しい体験型のフォーラムとして開催。



3. 金沢市



(1) 金沢市の特徴

伝統工芸や和菓子、加賀料理をはじめとする金沢の手仕事、職人の匠の技。独創的で研ぎ澄まされた感性の総体たる「金沢のものづくりの精神・クラフト」をテーマに創造都市政策を推進。

手仕事のまち・金沢として『**Craftism** 憲章』を制定。文化と産業の連環、人材の育成、国内外への情報発信の3つの方針に基づき、「①文化とビジネスをつなぐまち、②創造の担い手を育てるまち、③世界を引きつけるまち」の3つの創造都市・金沢の都市の将来像を掲げ各種事業を展開している。

(2) ユネスコ加盟都市との連携事業・主な取り組み

①世界創造都市フォーラム in 金沢 2008（平成20年10月18日開催）

- 創造都市の発展と連携を目指して、基調講演者にジャック・ラング氏、シンポジウムではイタリアのポローニャ市、アメリカのサンタフェ市、ドイツのベルリン市の実践者を招いて国際会議を開催。
- 金沢市、近江八幡市、沖縄市の市長による創造都市の取り組みと課題についてもパネルディスカッションを実施した。
- 金沢市は「世界創造都市フォーラム in 金沢」として、平成21年、22年、24年、25年と継続した取り組みを行っている。



フランスの元文化大臣であるジャック・ラング氏が基調講演を行った。「金沢は過去において創造的であり、今日、未来においても創造的である。」と金沢市の創造都市ネットワークへの登録を期待するスピーチを行った。



シンポジウムでは、サンタフェ市、ベルリン市、ポローニャ市の海外勢が参加。マウロ・フェリコリ氏（ポローニャ）は、大学の文化への影響、創造産業地区など特徴的な取組についてプレゼンテーションを行った。

②世界創造都市フォーラム in 金沢 2013 (平成 26 年 1 月 24 日開催)

- 青木正規文化庁長官の基調講演のほか、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市の4都市が実践発表を行った。
- サンタフェ市(クラフト&フォークアート)、サンテティエンヌ市(デザイン)、ブラッドフォード市(映画)、金沢市(クラフト&フォークアート)と異なる分野の創造都市の新たな交流をテーマとしたシンポジウムを開催した。
- 創造都市のアーティストなどの人材交流と国際化、分野を超えた連携を図るアジェンダが採択された。



サンタフェ市からは、地元の工芸作家と観光客を結び付けるクリエイティブ・ツーリズムなどユニークな取り組みが発表された。

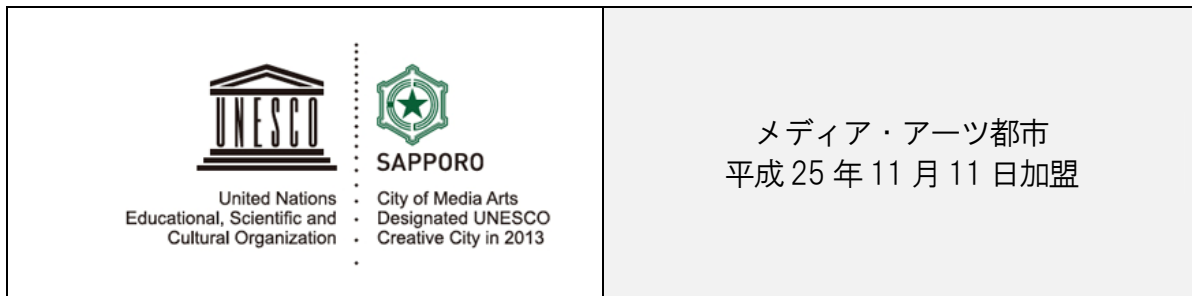
若手工芸家海外研修支援事業(クリエイティブ・ワルツ)

- 平成 22 年度より、金沢の若手工芸作家や学生(金沢美術工芸大学)をユネスコ創造都市の加盟都市であるベルリン市、ボローニャ市、アントワープ市に派遣し、地元の作家との交流を深めるとともに、レベルの高い芸術文化に触れることにより創造性を高めていく事業を開始した。
- 事業の枠組みを拡大し、アジア圏から染物、織物、漆芸などの工芸作家を受け入れる「アジア工芸作家等研修支援事業」もスタートしている。

③ユネスコ創造都市ネットワーク会議 2015 (平成 27 年 5 月下旬開催予定)

- 金沢市がユネスコ創造都市の世界会議の日本で初めての開催地に選ばれた。
- 世界の創造都市が金沢に集結し、加盟都市の市長も参集し市長サミットが開催される予定。
- 金沢市では北陸新幹線の開業直後の世界会議の開催となるため、ユネスコ無形文化遺産の「和食」の登録を併せて“金沢の工芸と食文化”を世界に向けて発信していく予定。
- 世界から金沢に参集する創造都市は 60 都市規模になる見込みである。

4. 札幌市



(1) 札幌市の特徴

平成 18 年 3 月に『創造都市さっぽろ宣言 (Sapporo ideas city)』を行い、「市民の創造力＝アイデア」を資源に国内外の都市と交流し新しい産業や文化を生み出す創造都市さっぽろの取り組みを開始。“内外の人材の創造性を刺激する都市”、“創造性を表現・発表できる機会に恵まれている都市”の 2 点に力点を置いた都市政策を展開していく。

平成 23 年には産学官連携組織として“創造都市さっぽろ実行委員会”を設立しユネスコ創造都市ネットワークのメディア・アーツ都市を目指していくことが決定された。

全国的にも IT 企業など情報関連産業が集積している札幌市の創造都市政策は、デザイン・アーツ・映像・音楽等をメディア・アーツと組み合わせることによってデジタルコンテンツ産業の創出を図るなど新産業創出の側面が強い。札幌市のベンチャー企業であるクリプトンフューチャーメディア社が開発した初音ミクはキャラクターとしても世界的な知名度を得ることとなっている。

札幌市立大学の武邑光裕教授を中心に設立された『札幌メディア・アーツラボ (通称 SMAL)』がメディア・アーツ都市・札幌の創造都市政策を推進する産学官連携組織として活動している。



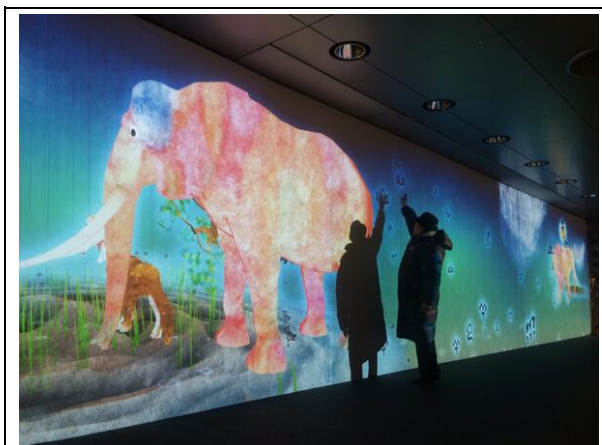
札幌市は 500m美術館と札幌駅前通地下歩行空間からなる地下空間ネットワークで 2012 年にグッドデザイン賞を受賞。メディア・アーツも活用し創造的空間を演出している。

(2) ユネスコ加盟都市との連携事業・主な取り組み

① インタラクティブアート・ショーケース in さっぽろ雪めぐり回廊（平成26年2月5日～11日開催）

- ユネスコ加盟を記念して実施した事業。
- 第65回さっぽろ雪まつりに合わせて実施される「さっぽろ雪めぐり回廊」において、メディア・アーツ札幌市を象徴する演出を行った。

札幌駅前通地下歩行空間北2条広場において、AR（拡張現実）を活用した最先端のインタラクティブアート（双方向技術を活用した芸術表現）作品を展開。



人の影が文字に触れると、その文字がもつ世界が表れ物語を展開していく。観察者の行動・ふるまいにも画像は影響を受け変化していく。



メディア・アーツが想像を越える画像の展開を演出し観る人を惹きつける。

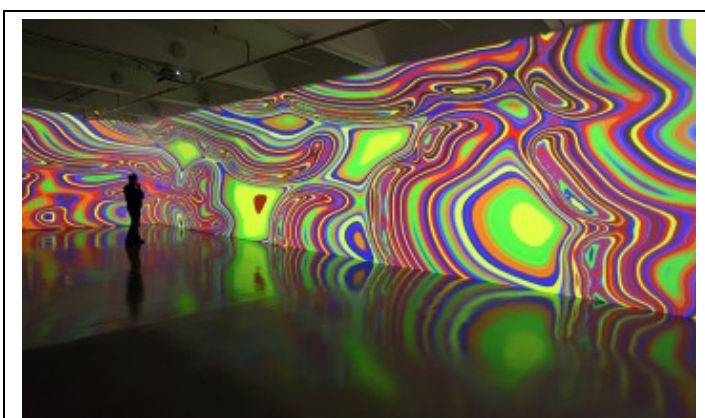
② ユネスコ創造都市ネットワーク加盟記念国際フォーラム（平成26年3月16日開催）

札幌市と同時にメディア・アーツ都市としてユネスコに認定されたフランスのアンギャン・レ・バン市のキーパーソンを招聘し、「メディア・アーツ都市はなにをめざすのか？」をテーマとした基調講演、プレゼンテーション、ラウンドテーブルを実施。

アンギャン・レ・バン市とB2B（企業間取引）の海外展開の端緒となる機会を創出するためビジネス交流の場を開催。



基調講演者としてドミニク・ロラン氏が札幌を訪れた。ドミニク氏は2002年に設立されたアンギャン・レ・バン市アートセンターのディレクター。



アンギャン＝レ＝バン・アートセンター(Centre des Arts, Enghien-les-Bains)において発表されたメディアアーツ作品。